

第100回 経営協議会議事録

日 時：令和5年3月20日（金）

14時00分～16時20分

場 所：事務局第1会議室（オンライン併用）

出席者

梅原出（議長）、高木まさき、三宅淳巳、谷地弘安、梶島洋美、泉真由子、関崎徳彦、相澤益男、亀崎英敏、國井秀子、合田隆史、辻慎吾、古尾谷光男、松本洋一郎、室伏きみ子

議 事

I 議事録報告

第99回経営協議会議事録（案）について、資料1のとおり確認した。

II 討議事項

1. YNU2023ビジョン等について

議長（学長）から、資料2に基づき、本学における次の30年・価値創造構築に向けて、2023ビジョンとそれを実現するための今年度の取り組み状況と、本学の2050年に向けた未来展望について説明があり、その後意見交換が行われた。

委員からの意見等は次のとおり。

- 2020学長ビジョン、2023学長ビジョン、2050YNUビジョンがどう関連するのということが分りにくくなっているのではないか。ビジョンがあって、戦略があって、重点的な取り組みが何であるのかを三段階として、YNUは全体として何処に向かっているのか、その中で今の取り組みがどういう位置づけなのかということを確認として早急に策定して欲しい。
→まずは学長視点のビジョンより2050YNUビジョンを作らなければならないと思っており、そこからブレイクダウンしていくのが良いと思っている。学長補佐と共に私のビジョンを踏まえつつ、YNUのビジョンと戦略について、部局長にも示し、今後、学長選考・監察会議にもお示ししていきたい、少々お待ちいただきたい。
- 憲章の中に多様性を加えることは非常に重要で素晴らしい。体制強化について若手の方を取り込み、多面的に多様な方たちが議論していくことを進めていることを大きく評価したい。
- 組織体制が整備していく中で、その過程がよく判らない。憲章やビジョンという言葉を作る時はできるだけ簡略化してその過程を明らかにしないと批判を招いてしまう。台風科学技術研究センターや防災についても大変期待しているので、実体的な社会の課題に的確に対応して欲しい。社会課題に応えられる報告書などアウトプットを随時出していくことは大学としての役割であり、評価される課題である。
- 価値創造に向けての意欲的な構想は是非推進して欲しい。産官学の対象として県内にこだわらず東京の企業を巻き込むことも考えていただきたい。
→環東京湾構想という話もある。県内の企業と東京の企業、どちらでもなくどちらもしっかりやっていく。現実として共同研究は東京の企業が多い。
- 生産性とは何かを是非考えて欲しい。生産性とは、通常その付加価値の額を投入コスト、あるいはマンパワーで割ったものと定義されるが、そうではない精神的な価値創造と言ったときに、生産性

をどう考えるのか。例えば障がい者の社会的な活動、参加について生産性をどう考えるのか、多様性も重要でこれを軸に据えられることはとても良いけれど、その多様性も価値創造に向かっていく体制だ。多様性がどういう形で価値創造に貢献しているのかをどうやって検証していくのが課題になっていくので、そういう研究をしていただきたい。

→生産性の問題ということはいろいろ議論しており、評価の部分では非常に難しい部分もある。多様性のところもご指摘のとおり、頑張って研究してみたい。

- さまざまな研究分野において民間企業との連携は積極的に進めて欲しい。民間企業との共同研究はその研究を社会に実装していくということ。また、横浜国立大学の研究の強み、特色をより明確に現わしていくということで大変重要で、海外大学では企業からお金を集めて研究者の起業やスタートアップしてくなど色々な良い面がある。次世代半導体や台風科学技術研究センターなど、とても強そうな、これから期待できるところに力を入れて目立たせて、進めていただきたい。

→本学でもやっと教員のスタートアップ企業が育ちはじめて、3億円のお金を集めて活動を活性化させようとしており大変期待している。本学で博士号をとった学生が社長となり、本気で技術の実装化、製品化等々もしており、地元自治体からも相当の期待を得ている。これを良い模範として育て、サポートして更に進めていきたい。

- 理工系と教育系など一緒にいろいろなことに取り組み、それぞれの分野に横串を通した形で、新たな分野が開けていく状況が見えてきた。これからもっと既知を集めた形で、研究教育を進めていただきたい。法人経営ガバナンス改革に地元のステークホルダーを大事にしていることは、とても大事なことだと思っている。全国展開は大事だが、横浜国立大学は、横浜、神奈川、そして湘南、というところで、もっと存在感を示されると良い。また、役員に女性が増えたことでいろいろな視点から横浜国立大学の発展のための意見が出てくるだろうし、女性の活力、そして知識智慧、そういったものをもっと、もっと活用していただきたい。経営戦略本部を立ち上げた他大学はたくさんあるけれど、学長の話から本気度が窺えた。臨機応変にタスクフォースを立ち上げ、目標に向かって進んで行くという方向性はとても素晴らしい。大学の方針として多様性を非常に大事にして進めていること、D&I 教育研究実践センターを立ち上げて、具体的な実験、実践が可能であることは将来に夢のある計画だと思う。国際戦略にも、防災減災にも多様化を大切にしている考えが反映されていて、今後とも是非頑張っていたいただきたい。

→ご意見は次の学長選考・監察会議で行う学長プレゼンテーションに反映させたい。

- 日本全体や国内のそれぞれの大学を見ていても、海外と繋がっていると云いつつ、自主的にはあまり繋がっていない状況。インド、オーストラリアというクワッドの枠組みで彼らと一緒にやっていくのが、今後の極めて大きな課題となる。キーワードのなかの国際頭脳循環、アイメック経験をもつ教員と例があった。そういう海外経験を持っている研究者を置いていく環境を作り込んでいくことが横浜国立大学の将来を決めていくことになるという観点で、人材に投資をし続けていただきたい。

→人への投資は重要。若手の教員採用することでお金を浮かして戦略的な人事をするということ、投資というところどう考えて行くかについて、部局長とも議論を始めている。

Ⅲ 審議事項

1. 横浜国立大学憲章の見直しについて

議長（学長）から、資料3に基づき、横浜国立大学憲章の見直しについて多様性を新設する旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

2. 第4期中期目標・中期計画期間における財政改革方針アクションプランについて

議長（学長）から、資料4-1～資料4-3に基づき、第4期中期目標・中期計画期間における財政改革方針アクションプラン（案）について概要説明があり、つづいて理事（総務・評価・広報・施設担当）から、全学的な人事マネジメントシステムの構築等の説明があった。その後、理事（研究・

財務担当) から、収入増・経費節減策に向けた取組等について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

3. 国立大学法人横浜国立大学全学人事協議会要項の制定等について

議長(学長) から、資料5-1~資料5-3に基づき、全学人事協議会を設置することに伴い、国立大学法人横浜国立大学全学人事協議会要項等を制定する旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

4. 第4期中期目標・中期計画にかかる令和5年度計画について

理事(総務・評価・広報・施設担当) から、資料6のとおり令和5年度計画を作成した旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

5. 国立大学法人横浜国立大学組織運営規則の一部を改正する規則(案)について

理事(総務・評価・広報・施設担当) から、資料7-1~資料7-2に基づき、大学の機能強化のため国立大学法人横浜国立大学組織運営規則の一部の改正を行う旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

6. 国立大学法人横浜国立大学教職員給与規則の一部を改正する規則(案)等について

理事(総務・評価・広報・施設担当) から、資料8-1~資料8-10に基づき、国立大学法人横浜国立大学教職員給与規則の一部の改正を行う旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

7. 国家公務員の定年引上げ開始に伴う本学の対応方針について

理事(総務・評価・広報・施設担当) から、資料9に基づき、国家公務員の定年引上げ開始に伴う本学の対応方針について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

8. 大船植木住宅の不動産の処分及び跡地について

理事(総務・評価・広報・施設担当) から、資料10に基づき、大船植木住宅の不動産の処分及び跡地について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

9. 常盤台地区の土地の寄附受入について

理事(総務・評価・広報・施設担当) から、資料11に基づき、常盤台地区の土地の寄附受入について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

10. 令和5年度予算編成方針(案)について

理事(研究・財務担当) から、資料12に基づき、令和5年度予算編成の概要について説明があり、原案のとおり承認された。

11. 令和4年度補正予算(3次)について

理事(研究・財務担当) から、資料13に基づき、今年度の第三次予算案について説明があり、併せて今年度予算の残額については次年度以降の光熱水費や物価高騰への負担軽減、その他不測の事態に備え計画的に繰り越す旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

12. 令和4年度目的積立金の活用計画(案)について

理事(研究・財務担当) から、資料14に基づき、令和4年度目的積立金の活用計画(案)について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

IV 報告事項

1. 国立大学法人横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部D&I教育研究実践センター規則の制定(案)等について

理事(総務・評価・広報・施設担当)から、資料15-1～資料15-8に基づき、国立大学法人横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部D&I教育研究実践センター規則及び関係規則を制定する旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

V その他事項

1. 次期役員、副学長、部局長等について

議長(学長)から、資料16に基づき、次期役員、副学長、部局長等の報告があった。

2. 来年度経営協議会の学外委員について

議長(学長)から、資料17に基づき、来年度の経営協議会の学外委員の報告があった。

3. 令和5年度経営協議会等開催日程について

議長(学長)から、資料18に基づき、令和5年度経営協議会等開催日程について報告があった。

以上